

ジェームス・ダン

(ジェームス・ダンは、直江津小学校校歌の作曲者です) 令和4年3月15日



主体性を育み、成長した一年

「クラス会議」の取り組みを通して

校庭の桜のつぼみも大きく膨らみ春の訪れを感じさせるこの頃です。

今年度もコロナ禍が続きましたが、直江津小学校 150 周年のメモリアルイヤーとして、思い出に残る一年となりました。これもひとえに地域、保護者の皆様からのご理解とご協力のおかげです。本当にありがとうございました。制限された中でしたが、子ども達は様々な活動や体験を通して、かけがえのない日々を送り一段と成長することができました。

特に今年度は、子ども達の「主体性」を育てることを教職員全体で共通理解し取り組みを進めてきました。主体性とは自分のやりたいことだけを追い求めるのではなく、他者とのかかわりの中で相手意識をもってこそ真に発揮されるものととらえています。

その主体性を育むための手立てをととして、全学年で「クラス会議」の取り組みを本格的に始めました。クラス会議というのは、クラスで話したい議題についてみんなで意見を出し合い様々なアイディアを出したり、またはその中で折り合いをつけて議題について決定したりする会議の方法です。上越教育大学の赤坂真二教授のゼミの皆さんの協力のもと進めてきました。

話し合いの議題は例えばクラスでの 150 周年の寄付金の使い方であったり、友達の困っていることについての解決策であったりします。このクラス会議は「輪」になることが、重要なスタイルです。輪になることで参加者全員の顔が見えます。そして話し合いの冒頭には必ず、自分の声を出す場面があります。話す子は「トーキングスティック」というマイクのかわりのモノをもっていて今話している子が誰にでもわかるようになっていきます。聞き手はトーキングスティックをもって話している子をしっかり見て傾聴します。たったこれだけのことで実は主体性を育む上でとても大切なプロセスになっています。自分の話をみんなが真剣に聞いてくれる雰囲気は自分が認められている居心地のよい安心な場になります。安心な場にいるときこそ、子ども達は主体性を発揮していきます。そして、自分の意見が尊重される経験は自ずと相手の意見も同時に尊重し認める態度が身についてきます。さらに、コミュニケーション力も話し合いの中で論理的に身にきます。つまり、クラス会議によって子ども達の主体性と社会性の両面を育んでいるのです。直江津小学校では、クラス会議の取り組みを次年度も継続的に取り組み、子どもたちにとって将来生きて働く力となる基盤を作ります。



【御礼】 3月7日にはPTA実行員会が実施できました。お忙しい中、新旧役員の皆様からご来校いただき今年度の活動報告等いただきました。また、専門部会では新役員の方への丁寧な引継ぎありがとうございました。次年度は古城小学校との統合年度でもあります。子ども達と同様に保護者や地域同士の新たなつながりを深め子どもたちの健全育成のためにお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

校長 長谷川明寿

150 周年事業⑪

～「150 周年記念誌」が出来上がりました～

創立 150 周年記念事業の今年度最後を飾る記念誌が出来上がりました。

表紙は、校舎のカラーをモチーフに、白と青で彩られています。地域や保護者の皆様をご招待できなかった記念式典や記念事業の様子を写真で紹介しています。

また、第三代目の校舎から第四代目の今の校舎に代わる頃に、ご活躍されていた教職員や P T A 会長の皆様から、思い出を語っていただいています。

沿革史や学校のお宝も載っています。

●記念誌をお譲りいたします ●一冊1,000円● フルカラー96ページ●

学校に多少ですが残部がありますので、欲しい方に一冊 1,000 円でお譲りいたします。数に限りがありますのでなくなり次第お譲りできなくなります。ご了承ください。

直江津小学校（543-2645）へお電話ください。

また、今回の記念誌を作成する際に、もととなった「創立百二十周年記念誌」も若干数残部があります。状態があまりよくないものもありますが、一冊 500 円でお譲りいたします。



●記念誌のイメージ●



校舎と校歌



校舎の変遷

記念事業





思い出と当時の写真



創立からの沿革史と当時の写真

2月・3月の子どもたちの様子をご紹介～学校ホームページでも随時紹介～

1松「きらめき学年」

～雪でぐるぐるうずまきを作って遊んだよ！～

雪の上を赤白に分かれて行進して渦巻き作り。とても大きな渦巻きができました。「よいい、ドン！」と内側と外側からスタートし、出会ったところで「じゃんけんぽん！」雪上とは思えない力強い走りをする子もいて驚きました。



2松「きずな学年」～遊びコーナー～

生活科で遊びコーナーを作りました。本来なら、1年生を招待して行う遊びコーナーだったのですが、コロナ禍で、それはできません。できたコーナーは、「しゃてき」「ボウリング」「釣り」「伝言絵」「お絵かき」「はたあげ」「ビー玉めいろ」「輪投げ」です。遊びを企画するのは楽しいのですが、人を楽しませるというのは、説明する力も必要です。いろいろ考えて、取り組み、楽しい時間になりました。



3松「ハッピー学年」

～6年生を送る会の準備をしています～

3年生の仕事は、①入退場のアーチづくり②ステージの看板作り③垂れ幕の色塗りです。直小を引っ張ってくれた6年生に感謝が伝わるように、丁寧に色を塗ったり、テープを貼ったりしました。本番では、6年生の入退場をアーチで華やかにします。素敵な6年生を送る会になるように、作業を進めていきます。

「あのねえ、〇〇さんが・・・。」 聞き始めたら、友だちとのトラブルの話だった！

小学生は、学童期という成長段階になります。家族の中の自分だけでなく、友だちとの関係を大切に始めていく時期です。そんな時期だけに、人と付き合う中で上手くいかないと思うことが起こりやすいのです。

お子さんが、家で話し始めたらどうすればいいでしょう。以下、参考にしてください。

☆自分に非がない場合も非がある場合にもすっきりとしない気持ちを抱えているものです。されて嫌だったことや悔しかったこと、やってしまって後悔していることなどを聞いてあげるだけでも子供のモヤモヤした気持ちや悩みを軽減してあげることができます。

☆子供から話を聞く時には事実を把握するように、心掛けましょう。ケンカをしたと聞くと我が子が可愛いあまりに、つい子供の話を鵜呑みにしてしまい、ケンカ相手を敵視してしまいがちですが、そこは冷静になって、子供の証言から事実を捉えることが重要です。子供は自分の非を語りたがりませんから、子供の言い分だけを鵜呑みにして、親まで怒っていると、あとから事実を知るといったことにもなり兼ねません。

☆子供が仲直りできるよう、さりげなく手助けをしてあげましょう。どうしてケンカになってしまったのか、なぜそう思ったのか、どんな気持ちだったか、お友達はどう思っているかなと問いかけることで自分の気持ちと向き合わせてあげることができます。気持ちを整理することができ、相手の気持ちを考えることもできます。そうすると仲直りをするためにはどうしたらいいのかに気づくことができるでしょう。

参照 <https://beauty-air.jp/quarrel-children>

「ミラーリング」という言葉があります。字のごとく「鏡」です。聞きながら、相手の動作や表情を真似るのだそうです。「ウンウン」「なるほど」など相づちを打つことも、相手が話したくなる方法の1つだそうです。

大人は、日々の生活で忙しいですが、ひと時、お子さんの話を聞く時間をつくるといいですね。

周囲の人と温かい関係をつくっていける人に育ってほしいですね。



4月の主な行事予定

※今後、変わる場合もあります。

- 7日（木）新任式・前古城小・直江津小児童との顔合わせ会、始業式
- 8日（金）入学式 2～5年生給食開始
- 13日（水）第1回PTA実行委員会 18:00～
- 14日（木）1年生給食開始 地域児童会（5限）2年生以上NRT標準学力検査（国語）
- 15日（金）2年生以上NRT標準学力検査（算数）
- 18日（月）後援会理事会
- 19日（火）6年生全国学力学習状況調査、交通安全教室（5限）
- 22日（金）授業参観 PTA総会 学年PTA 体音文総会
- 26日（火）内科検診
- 27日（水）家庭訪問（居所確認のみ）一日目
- 28日（木）家庭訪問（居所確認のみ）二日目

